

オフィス発生古紙のリサイクル ～紙をごみにしないために～



公益財団法人古紙再生促進センター

はじめに

古紙回収率は80%を超え、回収率も限界に近づきつつあります。紙の消費量が減少傾向を辿る中、回収量を増加させていくためには、回収率が低い業種や業態に着目し、未利用古紙を掘り起こしていく必要があります。

公益財団法人古紙再生促進センターでは、平成29年度にオフィスや事業所で発生する古紙を対象に、古紙回収を促進するための啓発冊子を作成し、紙リサイクルの研修会や講演会などの資料として活用してきました。また、これまでの調査を通して、オフィスや事業所で発生する古紙は、業種・業態によって発生量が多い古紙の種類が異なるなど発生特性に違いがあることがわかってきています。

その中で本冊子作成にあたり、他業種に比べ古紙回収率の低い金融業に着目し、金融機関における古紙回収の現状を調査するとともに、その発生特性に注目した古紙回収を促進するための啓発冊子を作成しました。

金融機関における古紙分別や回収の参考にいただければ幸いです。

目次

はじめに

古紙の流通とリサイクル..... 1

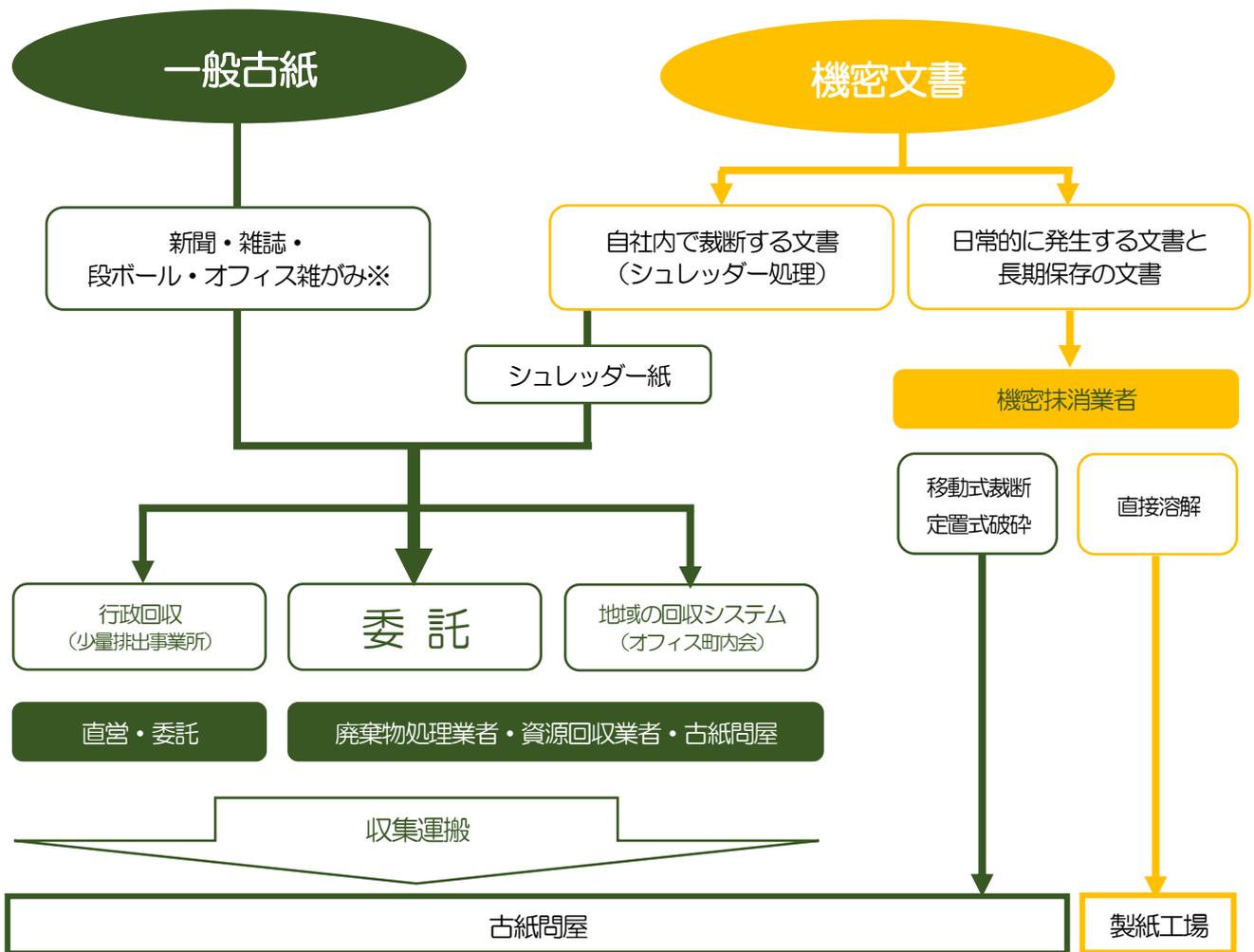
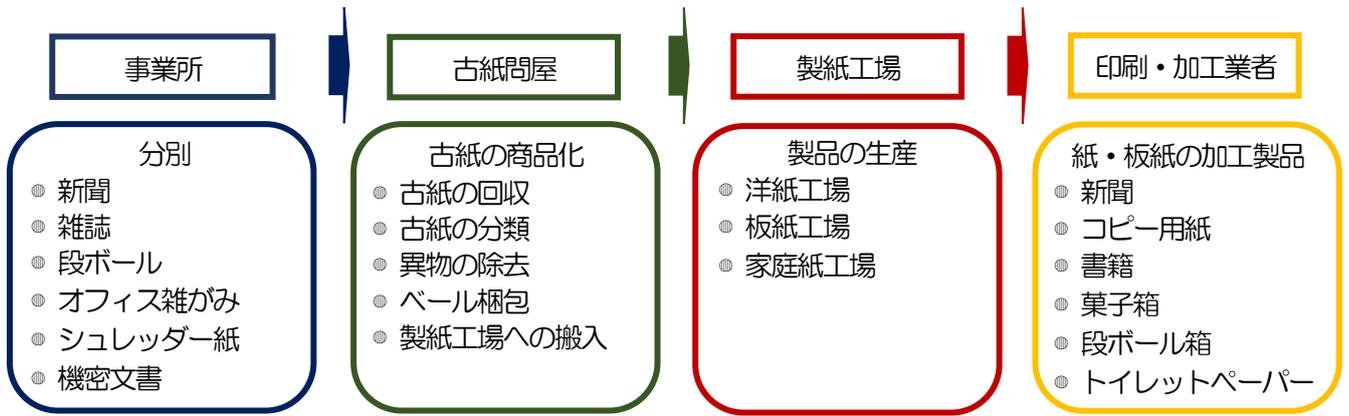
金融機関の発生特性 3

オフィス雑がみ..... 4

古紙回収の推進..... 6

資料～金融・保険業～..... 7

古紙の流通とリサイクル



※ オフィス雑がみ

オフィス雑がみは、オフィスより発生する紙及び板紙製品で、使用済みのコピー用紙、名刺、封筒、はがき、ノート、メモ用紙、紙製ファイル、ダイレクトメール、カレンダー、ポスター、包装紙、紙袋、紙箱、台紙などのことです。地域によっては、ミックスペーパーという用語を使用しているところもあります。本冊子では「オフィス雑がみ」という用語を使用します。

事業所

事業所で発生する古紙は、その業種や業態によって発生量の多い古紙が異なるなど特徴がありますが、**一般古紙と機密文書**に大別されます。一般古紙は、新聞、雑誌、段ボール、オフィス雑がみに分けられます。機密文書は、日常的に発生するものと保存文書があります。社内シュレッダーされる機密文書は、シュレッダー紙になりますが、これは一般古紙又は紙ごみとして排出されます。

【一般古紙】

- 一般古紙の排出ルートとしては、委託業者、行政回収、地域の回収システムがあります。古紙回収を請け負っている委託業者（引取業者）としては、廃棄物処理業者、資源回収業者、古紙問屋の3つです。行政回収は通常、少量排出事業所を対象としており、有料です。代表的な地域の回収システムは、オフィス町内会ですが、地域の古紙問屋や経済団体などが中心になって組織されています。
- シュレッダー紙は一般古紙として回収されてリサイクルされますが、リサイクルルートがない場合には紙ごみとして焼却されることもあります。

【機密文書】

- 移動式裁断車両や定置式破碎施設で裁断又は破碎される機密文書は、古紙問屋経由で製紙工場に搬入されます。破碎処理せずに製紙工場に搬入する場合は、直接溶解と呼ばれています。

古紙問屋

古紙問屋は、収集運搬業者が持込んだり、自ら収集した古紙を製紙原料として製紙工場に搬入します。古紙問屋の重要な機能の1つには回収古紙の中から紙にリサイクルできない異物を選別除去することです。古紙は、約1トンのバールに梱包されて製紙工場に搬入されます。

製紙工場

製紙工場は、大きく分けると洋紙工場、板紙工場、家庭紙工場に分けられます。洋紙工場は、新聞用紙、印刷・情報用紙などを生産します。

板紙工場は、段ボール原紙や白板紙などを生産します。

家庭紙工場は、トイレットペーパーやティッシュペーパーを生産します。

生産する紙・板紙の種類によって使用する古紙の種類が異なります。これが古紙を分別することの意義であり、必要性です。

印刷・加工業者

製紙工場で生産された紙や板紙は、印刷・加工業者によって紙製品に加工されて、新聞、書籍、コピー用紙、菓子箱、段ボール箱、トイレットペーパーなどの製品になります。

金融機関の発生特性

金融機関としては、都市銀行、地方銀行、信用金庫、ゆうちょ銀行、証券会社、保険会社、農業協同組合などがあります。こうした金融機関は、大量の個人情報を取扱う業種です。そのため大量の機密文書が発生します。新聞、雑誌、段ボールの発生量は多くはありません。

オフィス雑がみの大半はコピー用紙です。個人情報など機密情報が記載されたものの以外にも資料などを印刷したものが多く発生します。その他には封筒や名刺、伝票などもありますが、住所や氏名が記載されています。一般的な事業所では、機密性のないこれらの紙は、オフィス雑がみに該当しますので一般古紙として排出されることが多いと思われませんが、金融機関では、これらの紙を機密文書として処理している事業所もあります。

機密文書の処理方法の一つは、社内シュレッダー処理です。社内シュレッダーは、どの金融機関でも設置されています。シュレッダー紙は、一般古紙としてリサイクルルートに乗ることもありますし、焼却処理されていることもあります。

もう一つの処理方法は、機密文書処理会社への委託です。金融機関の方針、規模、入居している建物あるいは地域の事情などにより、処理方法（破碎・直接溶解）はさまざまですが、基本的には製紙原料としてリサイクルされています。

金融機関の発生特性は、機密文書の発生量が多いことです。

【事例 1】信用金庫（支店）

新聞(2紙)と雑誌(月刊誌3冊)以外に段ボールとオフィス雑がみの発生量は少なく、一方で、45ℓ袋1袋のシュレッダー紙が毎日発生します。オフィス雑がみには、感熱紙や宅配伝票が混入しているのを目にすることがあります。個人情報が記録されたコピー用紙、名刺、ノートなどは会社の方針ですべてシュレッダー処理することになっています。

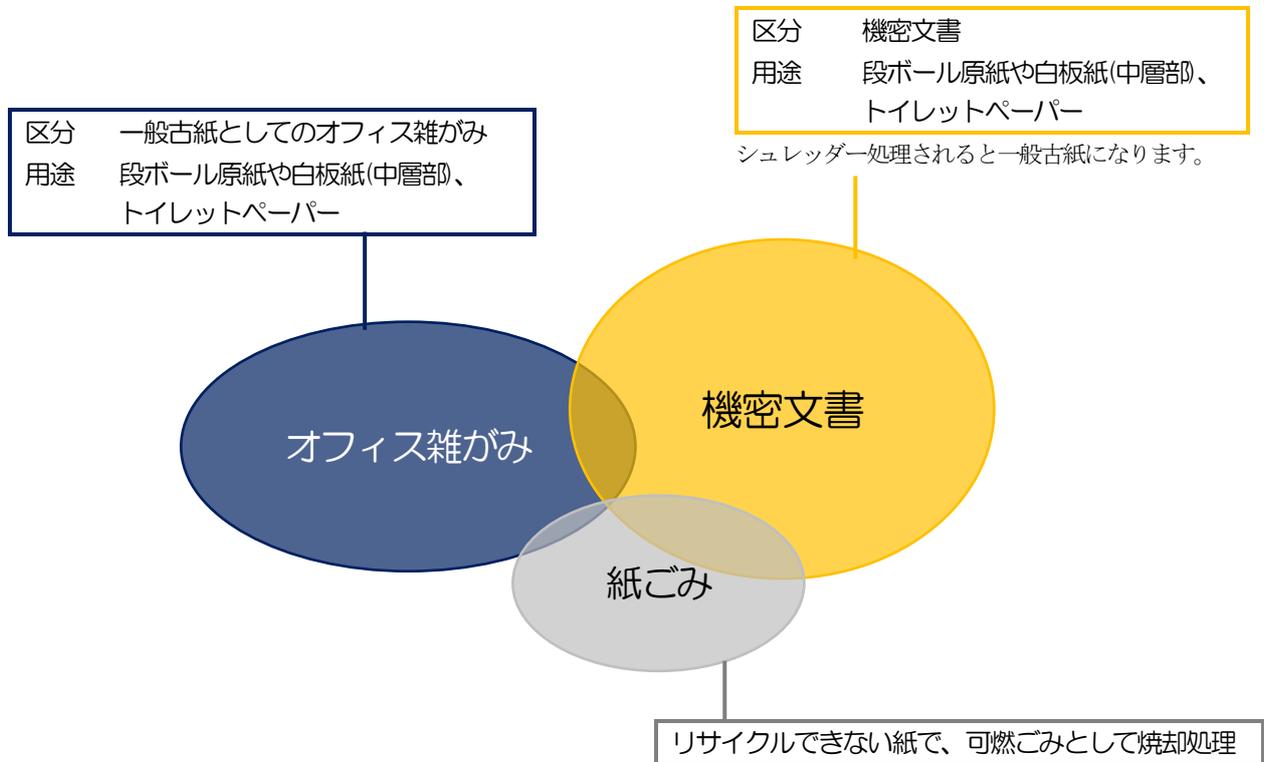
一般古紙は月3回の頻度で、本部社員が支店の新聞、雑誌、段ボール、シュレッダー紙を巡回回収しています。回収した古紙は、本部にて資源回収業者に引き取ってもらっています。

可燃ごみとして排出する紙ごみも多少発生します。これは、市の行政回収に有料で排出しています。

自社の倉庫に保存している保存文書は、本部が毎年業者委託して溶解処理しています。

オフィス雑がみ

オフィス雑がみには、種々雑多な紙・板紙が含まれますが、**排出者の判断**でつぎの3つの区分のどれかに分類されます。



【事例2】農業協同組合（地域組合本店）

JAは、金融関連事業（JAバンクやJA共済）に加えて、営農指導、生産資材の支給、福祉サービスなどを行っており、複数の部署に分かれています。

金融関連事業では新聞、雑誌、段ボールの発生量は少なく、一方でシュレッダー紙が毎日45ℓ袋1袋は発生します。個人情報記録されたコピー用紙などは、社内でシュレッダー処理することになっています。オフィス雑がみに感熱紙、宅配伝票、圧着はがきなどが混入していることがありますが、個人情報が含まれていればシュレッダー処理します。

一般古紙とシュレッダー紙は、ごみ保管庫に一時保管し資源回収業者に引き取ってもらっています。シュレッダー紙以外のオフィス雑がみは、可燃ごみとして市の行政回収に有料で排出しています。

保存期間が終了した（機密）文書は、廃棄物処理業者に委託して焼却処理しています。焼却工場に搬入する際は、職員が同行し処理を確認しています。

【事例3】銀行（支店）

古紙の区分は、新聞、オフィス雑がみ、シュレッダー紙、機密文書の4区分です。オフィス雑がみの半分ぐらいは、機密性があるためシュレッダー処理しています。それとは別に、個人情報などが記録されている文書（コピー用紙など）は、行内に設置されている機密文書専用のセイフティ・ボックス（業者設置）に投入することになっています。セイフティ・ボックスの設置を含めて本部が機密文書処理会社と一括契約しており、本部の指示で業者が回収にきます。

保存文書は、書庫（銀行内）と外部（業者）の倉庫で保存しています。書庫に保存している文書類は、保存年限が終了すると定期的に処分することになっています。外部倉庫は本社が基本ですが、内容によって支店でも契約しています。

清掃会社が毎日各フロアから一般古紙や可燃ごみを回収しており、週1回の頻度で廃棄物処理業者に引き取ってもらっています。この契約は支店ベースで行っています。

■ オフィス雑がみの例

オフィス雑がみは、新聞・雑誌・段ボール・紙製飲料用パック以外の紙のことで、また、雑誌は、マガジン類のほか綴じられた冊子なども含みます。

一般的な事業所と違い、金融関係における雑がみと機密文書との線引きは企業方針によって変わります。

使用済みのコピー用紙



ハガキ



チラシ



ポスター



名刺



ダイレクトメール



メモ用紙・紙製ファイル



包装紙



封筒



メモ用紙・紙製ファイル



ティッシュなどの紙箱



紙袋



機密文書
OR
雑がみ

■ 古紙に混ぜてはいけないもの（禁忌品）の例

オフィス雑がみを分別するときには、製紙原料にならない禁忌品（異物）を分別除去することが大切です。金融機関で見られる禁忌品は以下のとおりです。

感熱紙



(受付番号票、レシートなど)

圧着はがき



(親展はがき)

カーボン紙



(宅配便の伝票)

ノーカーボン紙

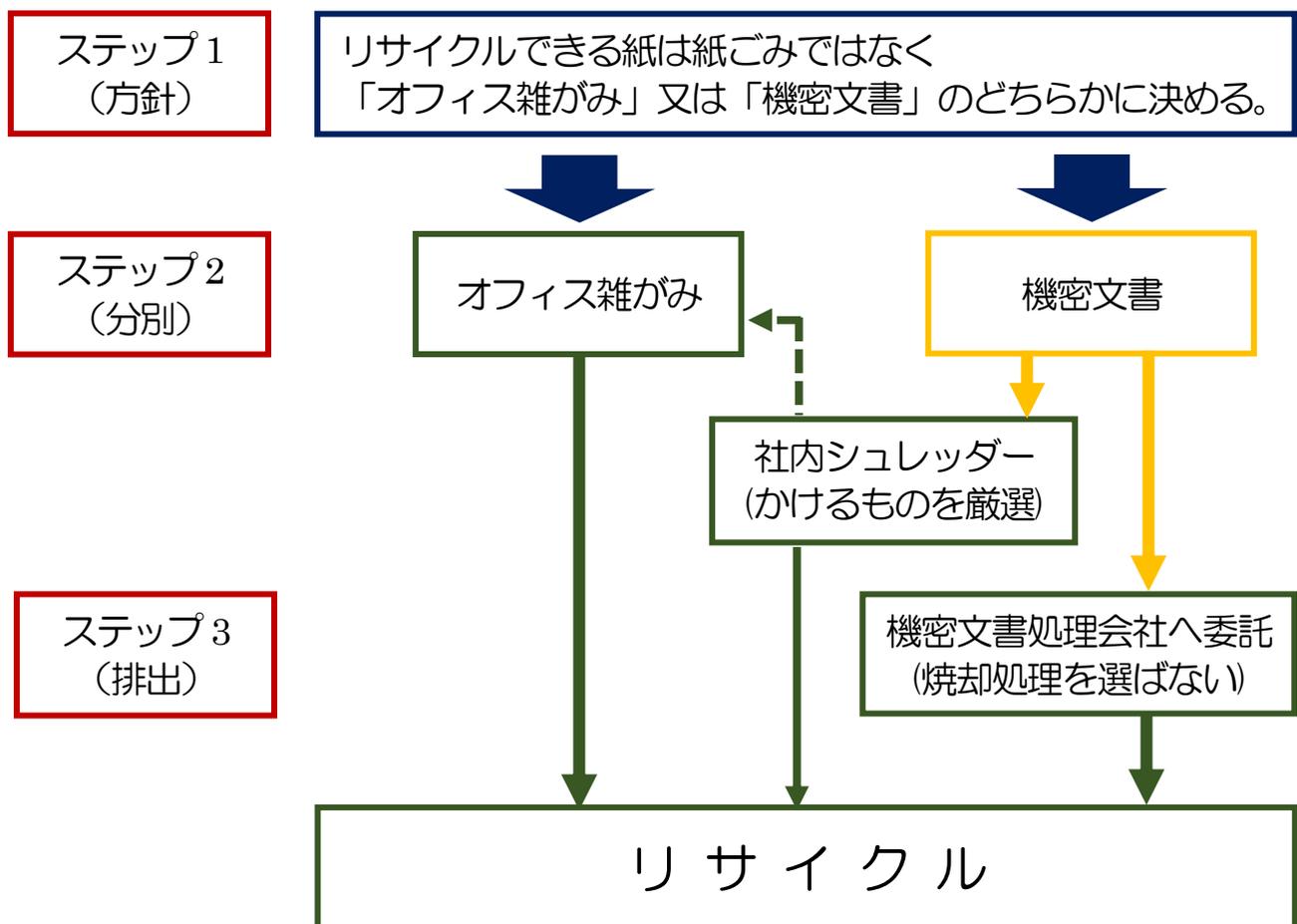


(伝票)

古紙回収の推進

新聞や段ボール、あるいは雑誌（マガジン類）はまとめやすいこともあり、高い回収率を記録しています。

オフィス雑がみは、大きさや用途がさまざまで一つにまとめにくいという短所があります。また金融機関の発生特性である機密文書は、未利用古紙として注目されています。オフィス雑がみと機密文書は、実態調査の結果が示しているように（p.7 資料参照）、今後の金融機関の古紙回収を推進するためのターゲットと言えます。オフィス雑がみをリサイクルルートに乗せるためのステップはつぎのとおりです。



【事例4】 ゆうちょ銀行（地域局）

このビルには、郵便・物流事業と金融事業の2つの業務を行う部署が入居しており、従業員数は約600人です。従って古紙回収や廃棄物処理に関連する業務はビル全体で行っています。

発生量としては、シュレッダー紙が最も多く、毎日450袋で4〜5袋は発生します。これは、個人情報対策もあって大半のオフィス雑がみをシュレッダー処理するようにしているためです。圧着はがき、カーボン・ノーカーボン紙、感熱紙などは紙ごみとして可燃ごみで処理しています。

ビルに清掃業者が入っているので、オフィスから毎日一般古紙と可燃ごみを回収し、一定期間ごみ保管庫で保管し、廃棄物処理業者に回収してもらっています。契約の形態は、それぞれの郵便局が業者から見積を取り、支社（たとえば関東支社）が一括契約する方法です。

保存文書は、別途機密文書処理会社と契約し、溶解処理してもらっています。倉庫保存する文書は、プラスチック製のファイルなどを使用していますが、引取りの際は文書をファイルから取り出して段ボールに移して排出しています。

資料～金融・保険業～

量が少なくても、せっかく分別した古紙はリサイクルしましょう。

◆排出量◆

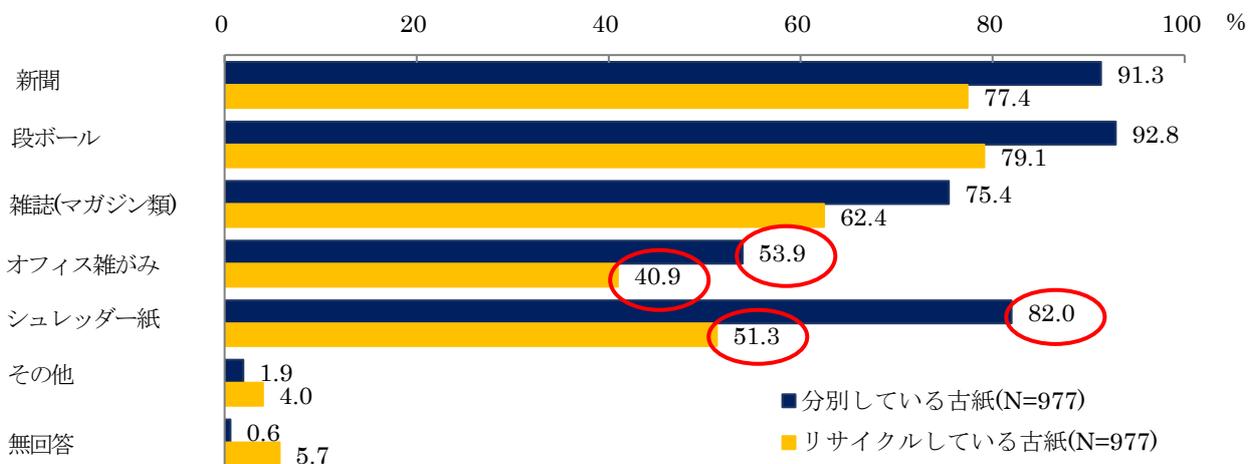
全国の金融・保険業で1年間に発生する古紙は約48万トンで、約25万トン(52.1%)が回収・リサイクルされ、残りの約23万トンは可燃ごみとして処分されています。とくにオフィス雑がみ、シュレッダー紙の回収率が低く、可燃ごみで処分されている約23万トンの約83%をオフィス雑がみ、シュレッダー紙が占めており、オフィスの紙リサイクルを進める上での課題となっています。



出典: 平成28年度(公財)古紙再生促進センター調べ

◆古紙の分別区分とリサイクルしている古紙◆

金融・保険業を対象とした実態調査では、オフィス雑がみを分別(53.9%)してリサイクルしている事業所の割合(40.9%)が低いのが特徴の一つです。またシュレッダー紙は分別(82.0%)している事業所の割合は高いですが、リサイクルしている割合(51.3%)は低くなっています。



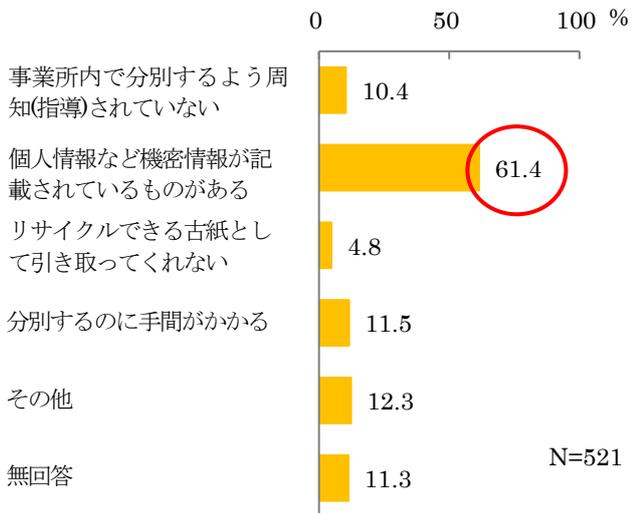
注: 平成28年度調査と平成30年度調査では回答事業所が違うことから、内容は一致しません。

出典: 平成30年度(公財)古紙再生促進センター調べ

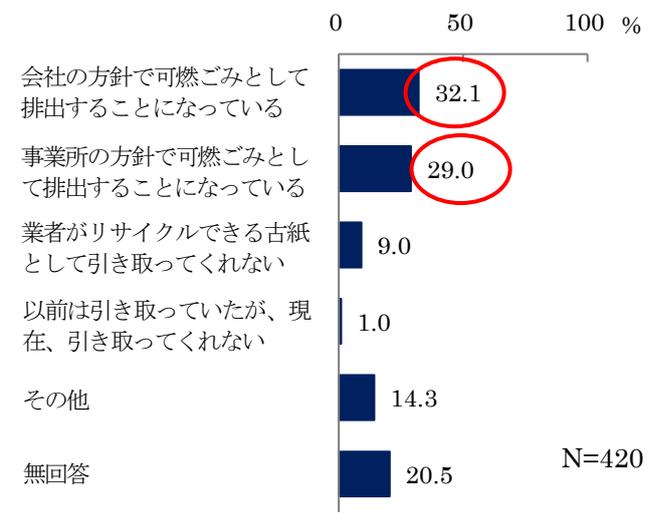
◆オフィス雑がみとシュレッター紙をリサイクルしていない理由◆

オフィス雑がみをリサイクルしていない理由は「個人情報などの機密情報の記載」(61.4%)、シュレッター紙は「会社の方針で可燃ごみとして排出」(32.1%)と「事業所の方針で可燃ごみとして排出」(29.0%)が高くなっています。

▶ オフィス雑がみ



▶ シュレッター紙

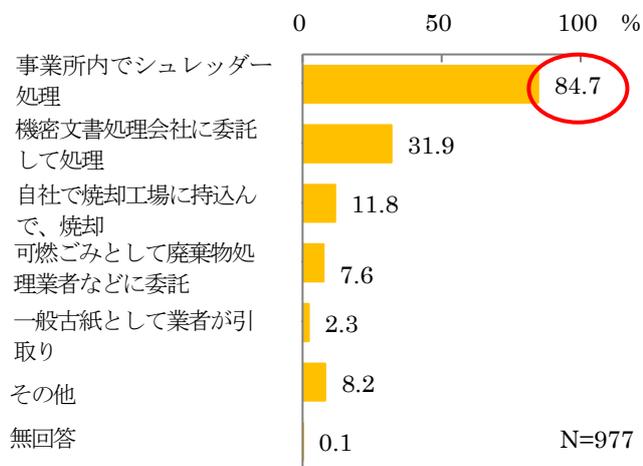


出典: 平成 30 年度 (公財) 古紙再生促進センター調べ

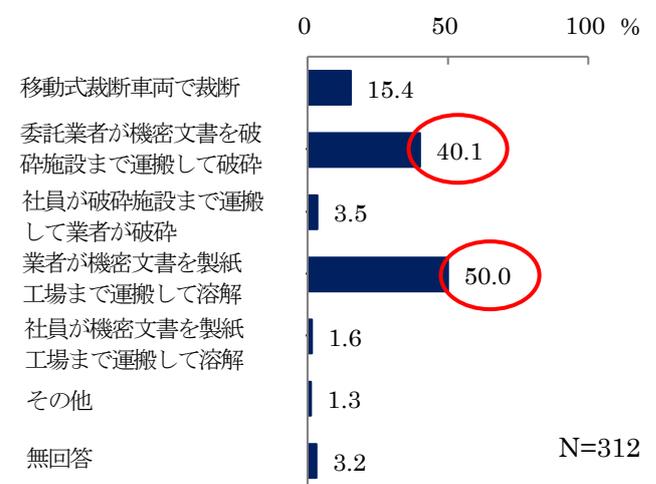
◆機密文書の処理方法◆

金融・保険業の事業者の機密文書の処理方法は、「事業者内でのシュレッター処理」が 84.7%を占めています。事業者が処理を委託した場合は、「業者が機密文書を製紙工場に運搬し溶解処理」(50.0%)と「業者が機密文書を破砕施設まで運搬し破砕処理」(40.1%)が高くなっています。

▶ 事業者



▶ 委託業者



出典: 平成 30 年度 (公財) 古紙再生促進センター調べ

発行 令和元年 5 月

公益財団法人古紙再生促進センター

〒104-0042 東京都中央区入船 3 丁目 10 番 9 号 新富町ビル 4F

TEL. 03 (3537) 6822 FAX. 03 (3537) 6823

ホームページ <http://www.prpc.or.jp>

無断転記禁止